

JAXA の山浦事業推進部長が資料 25-1(「きぼう」有償利用)を 12 分程で説明し、その後 12 分程の質疑応答があった。(宇宙開発委員会への報告の後月末までに公募を開始し、質問・相談を繰り返して 9 月末に応募を締め切る。その後資格審査、外部審査を経て利用リソース量を詳細に分析して応募者に結果を提示する。11 月初旬に応募者は利用リソース使用料を提案し、JAXA は最終的な審査を行い 11 月下旬に選定結果を通知すると云う計画である。第 1 回の経験を踏まえ、今回クルータイム、打上げ質量、回収質量に対し、最低単価を提示した事が特筆される。)

松尾委員長: 質問等御座いますか。はい、どうぞ。

青江: 去年に比べて時間数、それから重量等大分増える訳ですね。

JAXA 山浦: はい。

青江: どうして増やす事が出来たかと言いましょか、増に持つてく事が出来たと云う風に理解しとけば良いんでしょうか。

JAXA 山浦: 矢張り、クルータイム全体の割当が増えたと云う事で御座います。どうしても今迄の処、2000 ですから、既に選定したものについては、元々ステーション全体での利用時間が未だそれ程多くなかったと、所謂建設途上と言いましょか、そう云う状況なんです、クルーの利用に割り当てられる時間が増えていると云う事です。で、其れの全体が増えた、我々の分もだから増えた。従って此れに。

青江: 前回、三つ出て来て、「あの状況からして今度は 10 個位行

【議事(1)】 第 2 回「きぼう」有償利用テーマ募集の進め方について

きそうだな。」とか、「増えそうだな。」と云う見通しの下に増やしたと云う事じゃないの。

JAXA 山浦: あの、当然其れは御座います。前回、実際 10 月 11 月の頃、ホントに「きぼう」って上がるのかって思っておられた方も居られたと思うんですが、まあ、もう実際上がっていると云う事もありますし、我々は其れを期待してます。大いに期待してます。

青江: あの、民間の皆さんネ、こうやってる、こうインタラクトしてるアレからしてね、此れは相当ネ、従前よりもかなり、結構、民間からの関心も高くてネ、応募もありそうと云う感じかナァと思ったんだけど、

JAXA 山浦: ええ、ええ、まあ、そう云うお答えが一番模範的なのかも知れませんが、我々は、それはもうそう云う意味で割り当てていますし、元々 10% と云うのは、矢張り此の 2 回目のタイミングは何としてでも募集に漕ぎ着きたいです、其れを前提としてやりたいと思っておりましたので、まあ、ただ、我々のところに毎日電話が掛かって来てと云う事に基づいてると云う事では御座いません。

青江: ああ。

JAXA 山浦: 期待はして居ります。

松尾委員長: 何か未だ、話がどうもずれてる様な気がすんだけど、要するにアレでしょう。予測してネ、此れくらい来そうだからってんで其れに見合う時間を確保したのか、それとも時間が増加したから自然に斯う云う事になったのかと云う質問だと思っただけども、あの一、もっと分かんなくなっちゃ

ったか。

JAXA 山浦: いやいやそんな事ありません。あの、元々クルータイムが何時頃大体どう増えて行くかと云うのは我々分かっておりました。分ってる上で、其の時点では10%位にしてやりたいと思っておりました。そう云う意味では元々10%と云う前提をそのまま当て嵌めた結果が17時間であり、7キロとかそう云う重量ですね。

青江: そうするとネ、どう言うんでしょうか、もう少し民間の方にネ、**一種此方から言やあ市場開拓と言いましょかネ、其の辺をこう、やらないといかんのかも知れませんネ¹。**

JAXA 山浦: そうですね。

青江: あの、ズーッと待っとるより。

JAXA 山浦: はい、あの一、其れは仰る通りで、一寸中でもそんな議論は御座いましてですネ。まあ、8月2回説明会致しま

¹ まあ、「きぼう」の公募実験の事を議論しているのだから良いが、公募実験を上手く進める事が頭の中の大勢を占めている様な感じがして来る。予備設計から20年掛けて慎重に選定して来た各種の実験と実験装置が、どれだけの成果を生むのかと云う事の方が、遥かに重大な関心事だと思う。確かに、ISS計画に大金を投入し、其の成果が問われ、特に最近では費用対効果が問われる様になって来ているので、「国民の合意」は重要な要素ではある。しかし、生真面目に取り組んできた実験の成果や、我が国単独で取り組んだとしたら此れだけの費用では決して為しえなかった有人支援技術の獲得を以って、国民の理解を得る努力をする事も大切なのではないだろうか。

【議事(1)】第2回「きぼう」有償利用テーマ募集の進め方について

すが、東京だけで2回やるのが良いのかとかですネ、其の辺は御座います。

青江: まあ、あの、今回此れもネ、ええと、出来るだけ多くのメディアの方にもネ、キャリ(?)て頂いて、色んな所にある潜在的な関心、需要と云うものが来てくれる様に、何か、応募してくれるようにネ、工夫をしなければいかんのかも知れませんね。

JAXA 山浦: そうですね。あの、仰る通りです。まあ、一寸、あの一、メディアでは随分取上げて頂いてますけれども、未だ全国的な浸透がどうかって云う事が御座いますので、其れは前向きに何かしたいと思います。仰る通りです。

青江: その一、所謂お値段今度、一回目との関係で、値段を斯う云う風にされた方が、応募される方にとっても多分、まあ、一つの目安が有った方が良いだろうと云う事なんでしょうネ。

JAXA 山浦: ええ、ただ、最低で御座いまして、此れ以上でしたら高いほど有利と云う事で。

青江: 勝てるに越した事はないんだけど、

松尾委員長: **此れで一応は回収出来る?**

JAXA 山浦: **まあ、そう在りたい²**ですが、はい。あのまあ、其処から出るプロダクツの色んな意味で、波及効果をトータルで考えたら、はい。何か有るかも知れません。

青江: だからまああの、此の際、所謂、初期的段階、まあ稼ぐより

² 最低価格では国庫からの持ち出しになると云う事を言っているのか?

も有償で使って頂く実績の方が、多分此の際は重要なんじゃないかと云う気がしますけどネ。稼ぐ、所謂、ジョウ(?)よりも、非常にインパクトのある、多くの方々が「へー」と思う様な、関心を持ってもらえるようなテーマが上がってきて使われる、其のインパクトの方が大きい³、稼ぐ量よりも。云う気がしますけどネ。

JAXA 山浦: はい。あの、前回はそう云うご意見を青江委員から頂いておりますけれども、はい。そうは言っても中々、

青江: あくまで初期的段階の話ですネ。

JAXA 山浦: はい、そうですネ。

松尾委員長: さっきの話は 10%と云うのが、何か一つのデザインファクターで選んだと云う、そう云う話なのネ。

JAXA 山浦: そうです。デザインファクターとして持って居りました。ですので、まあ、今後まあ、実はええと、今後もっと増やしたいと思っておりますが、様子を見ながらホントにもっと増える様でしたらですネ、増やすと云う事も有り得ると思っておりますが、如何せん 2 回目で御座いますので、取り敢えずは 10%で今回考えて御座います。

³ 宇宙の実用化とはそれほど簡単なものでは無い様に感じる。衛星を使った携帯電話も、開発に時間が掛かったことによりハンドセットが大型で、毎年 2 回新機種が発表される地上系の携帯電話とは技術格差が大き過ぎる。宇宙と云う資源(微小重力、広い視野、高真空、放射線)は、地上では中々得難いものではあるが、利用するのにエネルギーとお金が掛かり過ぎるのが難点で、一般的な経済原則では評価しきれない処が有る。

青江: オタレバ(?)ハッピーですね。

JAXA 山浦: はい。

松尾委員長: 資格審査が外部審査と二つ何か有るみたいだけど、役割分担どうなってますか? 此処に書いてある範囲では何となく分かんないので。

JAXA 山浦: ああ、分りました。募集要項にもっとキッチリ書かせて頂いて居るんですが、

松尾委員長: 特に外部有識者の方に何を期待されてるかって云う事。

JAXA 山浦: ええ、そうですね、特にですね、矢張り世の中の的に見て、例えば公序良俗に反するものなのかとかですネ、そう云うような、或いは「宇宙飛行士に此れやらせちゃったら一寸拙いですよ。」とかですネ、そう云う我々自身よりも、矢張り広く世の中の、色々な分野の方においで頂いて、そう云う視点でご覧頂きたいと云う事で御座います。で、それ以前に JAXA としては、まあ、確りした会社の方とか、技術的に斯う云う点面白いけどホントに出来るんだらうかと、此れやっちゃったら一寸中が安全脅かされて大変だというのは我々の段階で一回除外させて頂くと云う事になります。ですので、此れは所謂出来るだけ色々な方に出して頂きたいと云う中で、そうは言っても論文審査では御座いませんので、除外せざるを得ないものが何なのかと云う事から考えして、まあ、1 回目上手く機能したと思っておりますので、2 回目も同じ様にやらせて頂くと云う事です。

松尾委員長: 一回目其処で引っ掛ったの有るんですか。

JAXA 山浦:一寸一つですネ、ご提案頂いたものを「これは大丈夫かな」と、あの、道徳的なものではなくてですネ、一寸御座いまして、其れはあの、ご提案者の方にご説明してですネ。まあ、あの、と云うのは一寸御座いましたが、其れは所謂風紀的なものではなくて、まあ、一寸違ったもので御座いました。

森尾:参考の為に教えて頂きたいんですが、リソースの中の電力とか、通信とか、容積って云うのは大体どんな感じなんですか。

JAXA 山浦:これはですネ、我々今これに対して何か制約をしないと云う事は御座いません。ああ、あの、ご質問、何かそれでお金を取るかと云う？

森尾:1キロワット時が幾らとか。

JAXA 山浦:我々現在其処についてはチャージしないと、はい。

森尾:通信料も？

JAXA 山浦:はい。

森尾:容積は？

JAXA 山浦:容積も、あの、所謂実現可能な範囲でやらせて頂くと。あの、全部中を占有する様な、非現実的なものはもう止めさせて頂きます。一寸、通信については将来的には恐らくビジネスの世界では色々な要求出てくると思いますから、其処は将来的には何か考えないといけないかも知れませんが、今の所未だ、其処について我々が何か下命を背負ってる訳では御座いませんので。

森尾:じゃあ、電力なんかは利用出来る最大限越さなければ良い

んですか。

JAXA 山浦:そうです。そうです。

森尾:どれ位まで利用出来るんですか。

JAXA 山浦:まああの、3キロワットとかそんなもんで御座いますけれども、我々自身でも使いますので、とてもそんな、何キロワットまでは一寸提供出来ません。

野本:あの、前回の積み残して有るんですか？前回3つに限った為に、他は良いんだけど、今回は一寸ご遠慮下さいって云う様なものが有ったんですか？それとも其れは、

JAXA 山浦:前回の募集時点で、もう其処で駄目になったものについては、其処で補欠にならずに、また機会を狙って下さいと云う事で、一回無しにして御座います。で、今回も同じです。但し、今後こう云ったビジネスをやっていく中ではですネ、そう云う事ではなくて、矢張りアイデアとそう云った意志が有ればまあ、順番を待ってやって頂くと云う方が、我々は賢いと思って御座います⁴けれども、はい。一応前回は改めて其処でクリアさせて頂いております。

池上:別に高いものを採用するって話じゃない⁵ですね。

JAXA 山浦:いえ、あの、此処の資格審査それから外部審査潜り抜けたものはですネ、此のリソースの許容される範囲の中ではもう高いものが採用される。

⁴ 恒常的に取り組むとすれば、ピギーバックの小型衛星と同じく、待ち行列と新規応募の中から毎年、或いは年に2回とかオークションが開かれるのが良いと思う。

⁵ 発表の中で、「高いものから採用する」と明言していた。

池上: 其れ大丈夫なの?⁶あの、オークションみたいになるって云う事?

JAXA 山浦: 其れでやらして頂くと云う事で、前回やりましてですネ、今回も同じ考えです。

池上: ああ、そうですか。

松尾委員長: 総計がマキシマムになるような組合せでやりますと云うのが、先のお答えだったんだけど、高いものから順番に並べといてやっていくのとどれ位違いますか、其のさっき仰ったストラテジーだと。まあ良いや、その内教えて下さい。そんなに高級な事では。

JAXA 山浦: まあ、色んな組み合わせ有りますネ。はい。あの、経験則だと数が多いほうが多いかも知れませんが、ただ分かりません、此れは。全部使うことによって非常に価値を見出して頂けるものが若し有ればですけども。

誰か: ...聞こえない...並べるって言うか。

JAXA 山浦: ええ、あの、そうです。仰る通りです。

松尾委員長: 例えば、クルータイムで 17 時間無くなるまで全部詰め込む訳?

JAXA 山浦: そうです。全部詰め込みます。

松尾委員長: 宜しゅう御座いますか。それじゃ、どうも有難う御座いました。

JAXA 山浦: どうも有難う御座いました。

⁶ 「大丈夫」とは何に関して評価しているのか、説明が全く無いので伝わらない。「JAXA が競を主催しても、定款や法に照らして違法性は無いのか。」と云う事なのか。